

2021年度(令和3年度)事業報告書

(自2021年4月1日 至 2022年3月31日)

一般財団法人 山縣記念財団

I 2021年度決算について (以下千円未満は切捨)

(正味財産増減計算書)

- a) 2021年度の経常収益は、基本財産運用益が985千円(前年度1,928千円)と前年度に比し943千円減少し、受取会費などと合わせ合計10,035千円(前年度10,929千円)と894千円の減少となった。
- b) 一方、経常費用は39,555千円(前年度41,695千円)と前年度比2,139千円減少し、
- c) 評価損益等調整前当期経常増減額は△29,519千円(前年度△30,765千円)となり、前年度比1,245千円の増加となった。
- d) また、基本財産等の評価損益等が26,999千円(前年度43,833千円)発生したため、
- e) 当期末正味財産は、442,951千円(前年度445,472千円)と前年度比2,520千円の減少となった。

(公益目的支出計画)

- f) なお、公益目的支出計画は認可を受けた年間支出金額29,902千円に対し実績は30,156千円と254千円計画を上回り、
- g) 2012年度計画開始以降の公益目的支出実績累計額は301,647千円となり、目標累計額299,017千円(=29,901千円×10年)を上回った。

II 実施事項

1. 継続事業1: 普及・啓蒙事業

学術研究誌『海事交通研究』(年報)第70集発行

合計9件の論文等(内、査読論文5件、論文以外4件)を掲載し、2021年12月15日発行、海運・物流関係者など約400件に配布した。

2. 継続事業2: 表彰事業(2021年山縣勝見賞)

受賞著作・論文・受賞者は以下の通り。贈呈式は、新型コロナ・ウィルス感染防止の観点から、昨年と同様中止し、賞金・表彰状及び副賞を受賞者宛郵送した。

- ・著作賞: 該当者なし
- ・論文賞: 小林 充著「内航船ウェザールーティングの開発と改善に関する研究」
- ・功労賞: 該当者なし
- ・特別賞: 北前船日本遺産推進協議会
(2017年日本遺産認定の北前船寄港地・船主集落11市町の連携活動に対して)
- ・特別賞: 木村 博一及び 村上 忠君(小学校社会科での「海事教育」の研究/実践に対して)

3. 継続事業3: 助成事業(海事関係団体などへ支援と協力の強化)

(1)2021年度助成については、9事業(7団体/個人)に対し185万円助成することが承認されたが、新型コロナ・ウィルス感染症の影響から、最終的に支払いを行ったのは、以下の8件(6団体/個人)に対し助成(合計1,467,900円)であった。

- ①日本海洋少年団連盟: 「褒状山縣賞」授与事業(20万円)

- ②日本海洋少年団連盟：「我ら海の子展」事業（10万円）
- ③日本海洋少年団連盟：カヌー等海上資機材整備事業（30万円）
- ④東京海洋大学海事普及会：「海と船の教室」（20万円助成後、未実行分83,754円返金、差引116,246円助成実行）
- ⑤NPO法人故郷の海を愛する会：海から始まる物語 IN 2021（10万円）
- ⑥瀬田広明（東海大学海洋学部教授）：航海計画立案時における紙海図とECDISの功罪検証（30万円）
- ⑦出口晶子（甲南大学文学部教授）：本州・四国の本土近接離島を中心とした連絡船の海事交通文化（30万円）
- ⑧千葉元（大島商船高等専門学校商船学科教授）：船舶関連の海洋汚染防止の法体制と現場の実情に関する調査（15万円助成後、未実行分98,346円返金、差引51,654円助成実行）

（この他、若土正史（神戸大学海事科学部非常勤講師）：手書きの判決及びその関連史料の翻訳費用の補助（20万円）についても助成が認められたが、新型コロナ・ウィルス感染症の影響もあり、2021年度中の活動が中止となり、辞退の申し出があった。）

(2)日本海洋少年団連盟主催の第49回「我ら海の子展」の最終審査会(2021年7月16日)には郷古理事長が出席し、「山縣記念財団理事長賞」を選定したが、授賞式は、新型コロナ・ウィルス感染防止の観点から中止された。

また、2021年度「褒状山縣賞」の授賞式は、新型コロナ・ウィルス感染防止の観点から延期となっていた2020年度の授賞式とともに、2022年3月25日に開催され、郷古理事長と松尾常務理事が出席した。

(3) 木原知己著『躍動する海ーさまざまに織りなす「海」の物語』（山縣記念財団ライブラリーNo.2、2021年5月20日海文堂より発行）に出版助成128万円供与。

(4) 苦瀬博仁著『ソーシャル・ロジスティクスー社会を、創り・育み・支える物流ー』（山縣記念財団ライブラリーNo.3、2022年3月30日白桃書房より発行）に出版助成100万円供与。

上記(3)(4)の出版助成事業については、2020年10月1日、内閣府公益認定等委員会より、継続事業3の助成事業の一環として実行可の旨承認を得ており、その初めての実行例である。

なお、当財団は、両書の販売には一切関与しておらず、印税など収益も発生していない。

Ⅲ 登記事項

2021.6.14 苦瀬博仁 評議員辞任、木原知己、味水佑毅 評議員就任
郷古達也、松尾泰彦、久下浩一、高田富夫 理事重任
苦瀬博仁 理事就任
郷古達也 代表理事重任
以上 2021.6.21 登記

Ⅳ 会議などの実施状況

以下に記載した合計17件の会議を行った。

新型コロナ・ウィルス感染防止のため、全てwebまたはeメールにて開催した。

1. 理事会・評議員会

No	開催日	場所/会議名	内容
(1)	2021. 5. 24	webにて 定時理事会	<ul style="list-style-type: none"> ① 2020 年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。 ② 2021 年山縣勝見賞答申案を承認。 ③ 定時評議員会の日時（6 月 14 日）、方法（web）、議題を承認。 ④ 資産の運用状況につき報告。 ⑤ 代表理事の職務執行状況につき報告。 ⑥ 公益目的支出計画達成後の財団運営につき、今後時間を掛け理事・評議員間で叡智を出し合い検討することとなったことを報告し協力依頼。
(2)	2021. 6. 14	webにて 定時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 2020 年度事業報告・決算・公益目的支出計画実施報告を承認。 ② 評議員苦瀬博仁の辞任を承認し、木原知己、味水佑毅を新たに評議員に選任（以上同日付）。 ③ 苦瀬博仁を新たに理事に選任し、郷古達也、松尾泰彦、久下浩一、高田富夫の重任を承認（以上同日付）。 ④ 資産の運用状況につき報告。 ⑤ 2021 年山縣勝見賞答申案が理事会で承認されたことを報告。 ⑥ 代表理事の職務執行状況につき報告。 ⑦ 公益目的支出計画達成後の財団運営につき、今後時間を掛け理事・評議員間で叡智を出し合い検討することとなったことを報告し協力依頼。
(3)	2021. 6. 14	webにて 臨時理事会	<ul style="list-style-type: none"> ① 代表理事（理事長）に郷古達也を選定。
(4)	2021. 10. 7	webにて 臨時理事会	<ul style="list-style-type: none"> ① 出版助成関連規程の改定及び制定、並びに、申請要領制定につき承認。 ② 苦瀬理事からの出版助成申請につき、苦瀬理事退席後承認。
(5)	2021. 11. 22	webにて 臨時理事会	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本財産の一部取崩しにつき承認。 ② 「海事交通文化の調査研究並びにそれに関連する事業に対する支援・助成に関する規程」改定につき承認。 ③ 臨時評議員会の日時（12 月 6 日）、方法（web）、議題を承認。 ④ 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況について報告。 ⑤ 基本財産等の運用状況につき報告。 ⑥ 代表理事の職務執行状況につき報告。 ⑦ 年報第 70 集掲載論文につき報告。 ⑧ 年報第 71 集で統一テーマを定めず、自由テーマをメインとして、参考までにいくつかのカテゴリーを表記するにとどめることを報告。 ⑨ 補助金助成の募集要領、申請書フォーム改定につき報告。 ⑩ 80 周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』が第 53 回住田海事奨励賞を受賞したことを報告。
(6)	2021. 12. 6	webにて 臨時評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ① 基本財産の一部取崩しにつき承認。 ② 事業活動及び収支状況の中間報告並びに公益目的支出計画の進捗状況につき報告。 ③ 基本財産等の運用状況につき報告。 ④ 代表理事の職務執行状況報告。 ⑤ 年報第 70 集掲載論文につき報告。 ⑥ 年報第 71 集で統一テーマを定めず、自由テーマをメインとして、参考までにいくつかのカテゴリーを表記するにとどめることを報告。 ⑦ 出版助成関連規程の改定及び制定、並びに、申請要領制定につき報告。 ⑧ 苦瀬理事からの出版助成申請が理事会で承認されたことを報告。 ⑨ 「海事交通文化の調査研究並びにそれに関連する事業に対する支援・助成に関する規程」改定につき報告。 80 周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』が第 53 回住田海事奨励賞を受賞したことを報告。

(7)	2022. 3. 14	webにて 定時理事会	① 2022年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を承認。 ② 助成審査委員会答申案を承認。 ③ 臨時評議員会の日時（3月24日）、方法（web）、議題を承認。 ④ 基本財産等の運用状況につき報告。 ⑤ 2021年度出版助成、年報第71集、2021年山縣勝見賞の進捗状況につき報告。
(8)	2022. 3. 24	webにて 臨時評議員会	① 定款の変更（常務理事を1名→人数不問）につき承認。 ② 「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」改定につき承認。 ③ 2022年度事業計画・収支予算・公益目的支出計画を報告。 ④ 2021年度の資産運用状況につき報告。 ⑤ 2022年度補助金助成答申案が理事会で承認されたことを報告。 ⑥ 2021/2022年度出版助成、年報第71集、2022年山縣勝見賞の進捗状況につき報告。
(9)	2022. 3. 25	eメールにて 臨時理事会	① 2022年3月24日臨時評議員会で変更が承認された定款に基づき、松尾泰彦及び久下浩一を常務理事に選定。 ② 上記臨時評議員会で改定が承認された「役員及び評議員の報酬等並びに費用に関する規程」に基づき、常勤理事3名（理事長・常務理事）の役員報酬の改定につき承認。

2. 年報掲載作品編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2021. 8. 5	webにて	(2021年3月23日編集委員会開催時点では、執筆申請書が提出されていた全11件につき執筆を応諾することが承認されたが、その後2件につき執筆辞退の申し出があり、9件の論文が期限内に提出された。) ① 提出された9件を査読に回すことを承認したが、うち1件については論文の体裁から逸脱していると判断されるので、広く読み物としての査読をしてほしい旨、査読者宛丁寧に依頼することとし。他の1件については関連論文と矛盾する内容が散見されるので、査読者に一緒に送り判断を仰ぐこととした。
(2)	2021. 10. 1	webにて	① 査読対象論文9件の査読結果を受け、各執筆者に対し査読報告書の指摘事項を原則そのまま（一部緩和表現に変えて）伝え、修正/指摘事項への回答を見て、次回の委員会にて、掲載可否を決定することとなった。
(3)	2021. 11. 10	webにて	① 9件の修正結果を見た結果、委員指摘箇所（査読結果を反映）の修正をすれば、うち5件は「研究論文」として、うち1件は「現地レポート」として夫々掲載可とし、うち3件は「不掲載」とした査読者に修正原稿を見せて判断を仰ぐこととした。 ② 2022年第71集のテーマ設定につき、2021年度と同様自由にテーマを選定してもらうこととし、参考までにいくつかのテーマ候補を例示することとした。 ③ 次々号発刊までに、以下につき検討することとした。 ・募集の際、執筆者から投稿するカテゴリー（研究論文・研究ノート・現地レポート等）を提示してもらうかどうか。 ・アブストラクト（要旨）・キーワードを本文の前に記載するかどうか。 ・頁数は今のままでよいかどうか。 ・修正稿提出の際、査読者や委員の指摘事項への対応表を定型化示すること。
(5)	2022. 3. 17	webにて	① 年報第71集への論文等執筆申請8件について審議し、全8件について執筆を応諾することが承認された。 ② 過去数年の申請/掲載件数の漸減傾向に鑑み、申請件数が10件を下回る今回については、追加で執筆を依頼する候補先リストを作り、その中から依頼する順番を、メールで決めることになった。

3. 山縣勝見賞選考委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2021. 5. 17	webにて	<p>① 2021年山縣勝見賞受賞候補として、論文賞1件、特別賞2件を選定し、理事会に答申することとした。著作賞と功労賞は該当なしとした。</p> <p>② 各賞の選定に際しての注意事項につき、下記の通り同意した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の受賞者の同一賞への申請・推薦は、受理しない。 ・ビジネスについても、その業績への貢献の主体である個人か法人を授賞対象とする。 ・英文の著作・論文も受け付ける。 ・「山縣勝見賞表彰に関する内規」第2条(1)に「主として学校などで教材に供するため著したものは原則として対象外とする」との規定があるが、「教科書」の定義付けが必要という意見があったので、事務局で取りまとめる。 ・論文賞は、博士論文を優先するが、中には博士論文でなくても優れたものがある可能性があるため、現状通り制限を加えない。 ・今回の著作賞候補には、「海洋」をテーマにしたものが多かったが、当財団設立の趣旨から考えると、海運関連のものを優先し、基軸がぶれないことが好ましいと思われる。例えば、同じ環境問題でも船舶から排出されるものはよいが、プラスチックごみなどは、対象外と思われる。

4. 助成審査委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2022. 3. 3	webにて	7団体/個人による9事業、285万円の申請に対し、6団体/個人による8事業へ183万円の助成を行うことを内定し、理事会に答申することとした。

5. 80周年記念出版編集委員会

No	開催日	場所	内容
(1)	2021. 6. 28	webにて	2021年3月28日、80周年記念出版『日本の海のレジェンドたち』は無事に発行されたが、最後の委員会を開催し、注文実績状況や反省点などを話し合った。本会議をもって、本委員会は解散した。

以上